日本語MS-DOS®

日本語MS-DOS® V5.0 ファーストステップガイド

FM R-80/70/60/50, FM TOWNS

80SP-0103-1

FM R-80/70/60/50
FM TOWNS

日本語MS-DOS® V5.0
ファーストステップガイド

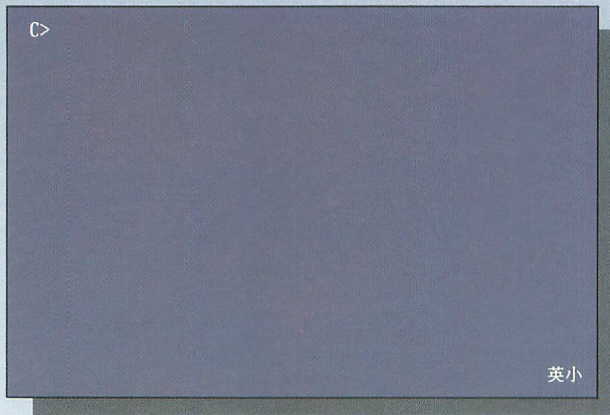
富士通株式会社

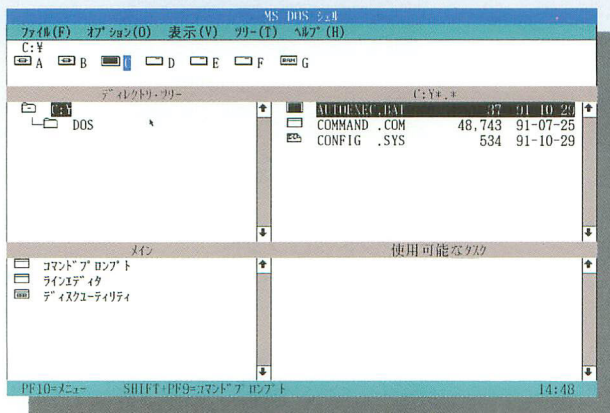
本マニュアルには，「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています．したがって，本マニュアルまたはその一部を輸出する場合には，同法に基づく許可が必要とされます．
富士通株式会社

セットアップが終わったら

MS-DOSには，2つの使い方があり，
どちらでも同じようにMS-DOSを使うことができます．

コマンドプロンプト

簡素な画面ですが，使い方の上で高度な応用ができます．

MS-DOSシェル

使い方がわかりやすく，高い機能を持っています．

2つの使い方は，簡単に切り替えることができます．

MS-DOSを起動してみましょう

セットアップが終わったら，コンピュータの電源をOFFにし，もう一度，電源をONにします．

フロッピィディスクから起動する

セットアップで作った起動ディスクをフロッピィディスクドライブに入れ，コンピュータの電源を入れます．コマンドプロンプトが使える状態になります．
MS-DOSシェルに切り替えることはできません．

MS-DOSシェルを起動する場合

MS-DOSシェルディスクをフロッピィディスクドライブに入れます．
コマンドプロンプトからDOSSHELLと入力します．コマンドプロンプトとMS-DOSシェルを切り替えることができます．

ハードディスクから起動する

コンピュータの電源をONにします．

セットアップのときの設定

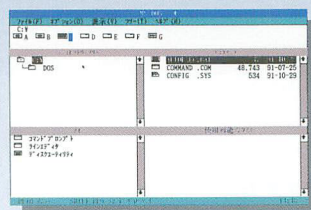
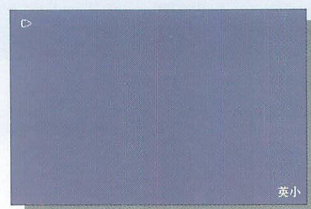
起動時のシェルの起動

はいを選択

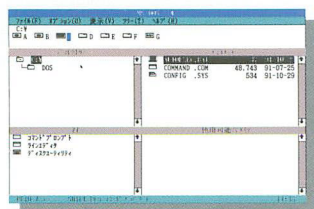
MS-DOSシェルが使える状態になります．

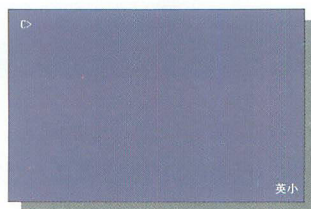
いいえを選択

コマンドプロンプトが使える状態になります．

ハードディスクから起動するときは，
簡単に切り替えることができます．

切り替え方

MS-DOSシェル

PF3 キーを押します．

コマンドプロンプト

キーボードからDOSSHELLと入力して
↵ キーを押します．

本書でわかること

ファーストステップガイドでは，
MS-DOSシェルを使って，
MS-DOSの基本的な使い方を説明します．

MS-DOSの働き

MS-DOSの基本的な３つの働きを説明します．

MS-DOSの使い方とファイル

MS-DOSシェルの画面内容やファイルについて説明します．

ソフトウェアの起動

MS-DOSシェルからソフトウェアを起動する方法を説明します．

ファイルの管理

MS-DOSシェルを使ってファイルを管理する方法を説明します．

ディスクユーティリティの使い方

ディスクのフォーマットの方法やプログラムリストの働きを説明します．

オンラインヘルプの使い方

オンラインヘルプという画面上に表示されるマニュアルの使い方について説明します．

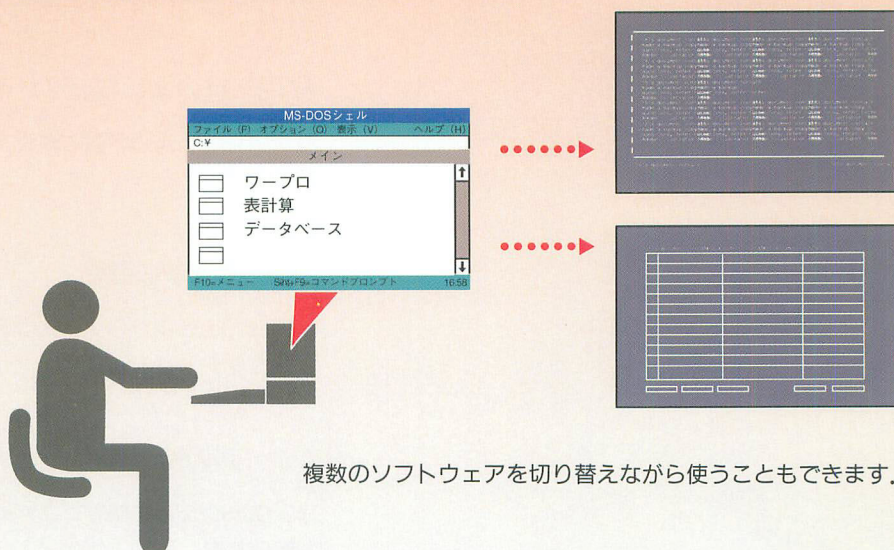
MS-DOSシェルのいろいろな機能

この他のMS-DOSの機能についての概要を説明します．

MS-DOSの働きとは何だろう?

MS-DOSは，パーソナルコンピュータの基本ソフトウェアです．
MS-DOSを使うことによってワープロや表計算などのソフトウェアを使うことができます．また，コンピュータにプリンタやスキャナ，モデムなどを接続したり，ハードディスクなどを増設するとき，それらの周辺機器を使えるようにコンピュータのシステムを設定することができます．

MS-DOSの基本的な働きは，次の3つです．

1　ワープロや表計算などのソフトウェアを起動します．

複数のソフトウェアを切り替えながら使うこともできます．

2　ソフトウェアを使って作成したファイルを管理します．

ワープロで作成した文書のコピーを作ったり，名前を変えたり，いらなくなったファイルを削除したり，関連のあるものをまとめて保管することができます．

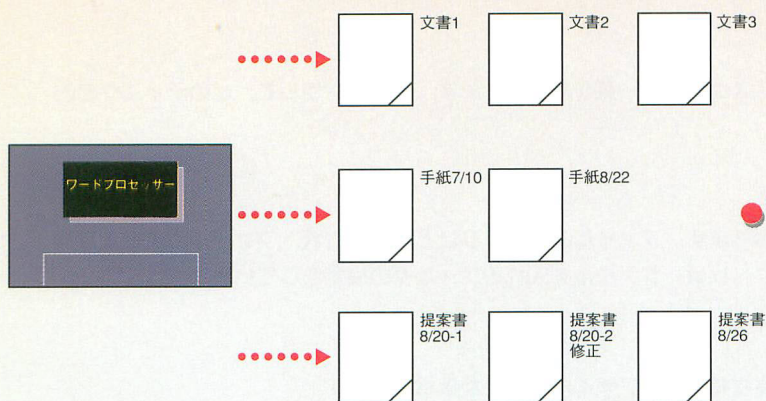
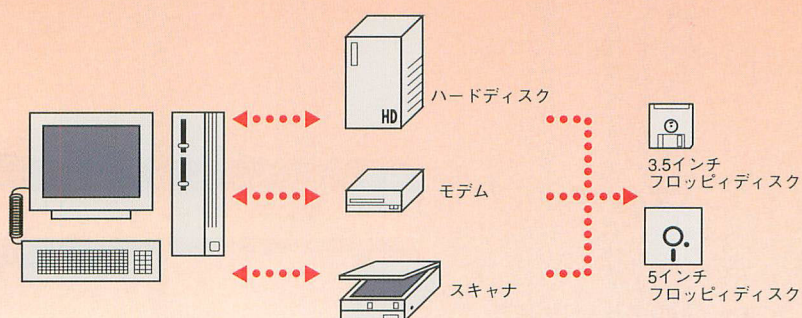
MEMO

MS-DOSシェル
MS-DOSの使い方を学ぶにつれて，パソコンをより自由に使いこなすことができるようになります．MS-DOSシェルはその一歩です．

ソフトウェアの起動
ソフトウェアによっては「起動ディスク」と呼ばれるものを使うと，MS-DOSとソフトウェアの起動が，連続して自動的に行われるように設定されている場合があります．

本書では，MS-DOSの使い方を学ぶために，マウスやキーボードを使って，ソフトウェアを起動する方法を説明します．

3　コンピュータの周辺機器について，使用できるように設定します．

コンピュータで新たに機器を使用する場合，使用するコンピュータに合わせてMS-DOSを使ってシステムを設定することが必要です．たとえば，ハードディスクやフロッピィディスクなどをはじめて使用するときは，フォーマット（初期化）という設定を行わなければなりません．本書では，フロッピィディスクのフォーマットについて説明します．

ファイルの管理

ソフトウェアを利用していくうちに，作成されるファイルの数も増えてきます．何がどこにあるか，必要なものはどれか，いらないものは削除するなど，ファイル管理は，大切です．

MS-DOSでのファイル管理方法は，ファイルフォルダやファイルキャビネットを使う，机上の作業と同じイメージで行うことができます．

システムの拡張

コンピュータシステムは，新しい装置を接続することによって機能を拡張することができます．システム拡張の方法については，他のマニュアルを参照してください．

2 MS-DOSの画面とファイルリスト

MS-DOSの画面には，ファイルの一覧（リスト）が表示されています．
MS-DOSの使い方の第一歩は，画面に表示されている内容を知ることです．

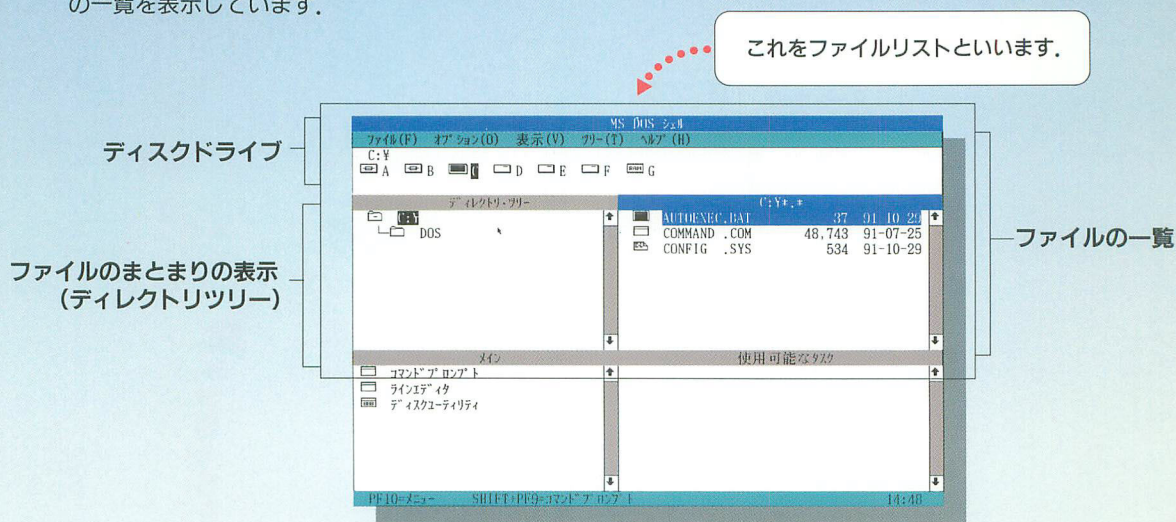
画面表示の内容

次の図は，MS-DOSの基本画面です．

コンピュータのディスク装置（ハードディスクやフロッピィディスク）の中に，記録されているファイルの一覧を表示しています．

これをファイルリストといいます．

ディスクドライブ

ファイルのまとまりの表示
（ディレクトリツリー）

ファイルの一覧

ディスクドライブ

コンピュータに接続されているディスク装置の一覧が表示されます．この欄を使って，どのディスクの内容を見るかを指定します．

ディレクトリ

選択されたディスクの内容が表示されます．ファイルのまとまりごとに表示され，ファイルのまとまりをディレクトリといいます．ディレクトリは，ファイルを入れるフォルダの役割をしています．

ファイルの一覧

選択されたディレクトリの中に保存されているファイルの一覧が表示されます．

MEMO

MS-DOSの基本画面
この画面は，MS-DOSシェルのプログラム＆ファイル・リストという画面表示です．MS-DOSシェルには，別の画面表示もあります．22ページを参照してください．

ディスクドライブ
ここに表示されるディスクドライブは，使用しているコンピュータのシステムによって違います．

ディレクトリ
ここではC:¥をドライブCのルートディレクトリといい，ディレクトリの中には，ファイルやディレクトリがあり，ディレクトリの中にディレクトリを作ることができます．

MS-DOS からソフトウェアを起動するためには，まず，プログラムファイルを指定しないと起動できません．ファイルをコピーしたり，削除したりするときも，まず，操作するファイルを指定しなければなりません．

ファイルの種類

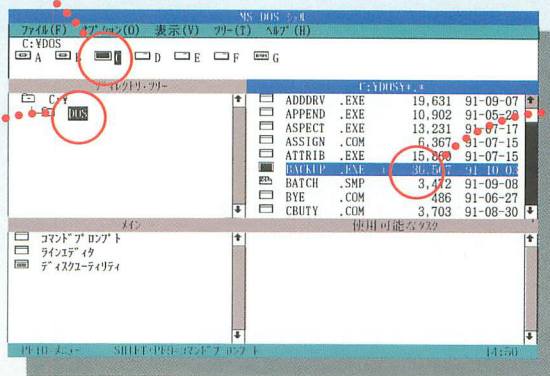
ファイルには，次の2種類があります．

プログラムファイル　ワープロや表計算などのソフトウェアのことをいいます．

データファイル　ソフトウェアを使って作ったファイルで，たとえば，ワープロで書いた文書や，表計算で作った表などのことをいいます．

どららもMS-DOSでは，ファイルとして扱われます．

ファイルの指定の方法

ファイルを指定するには，どのドライブの，どのディレクトリの，どのファイル，という順で指定します．

MS-DOSを使うには，まずファイルの指定の方法を覚えることが重要です．

プログラムファイル
ソフトウェアも，ディスク中では，ファイルとして記録されています．データファイルと同じように，コピーしたり削除することができます．

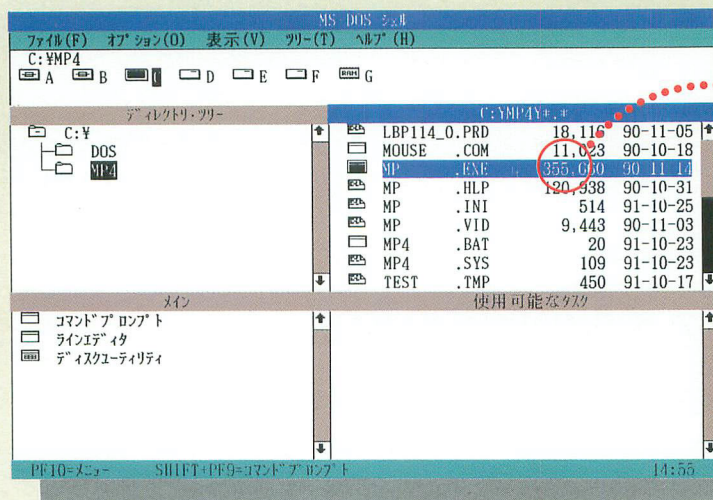
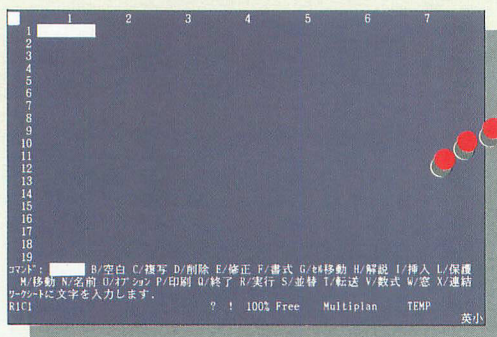
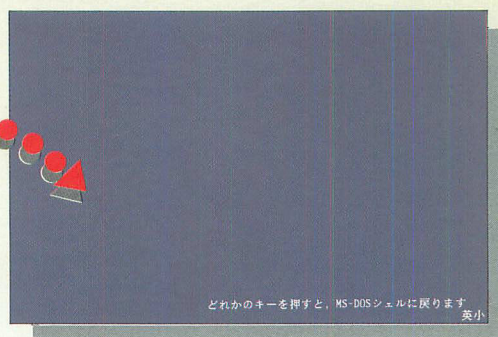
ファイル名
ファイルの名前と拡張子に分けられます．たとえば，FORMAT. COMならFORMATをファイルの名前，.COMを拡張子といいます．

ファイルの種類
拡張子によって区別されます．.EXEや.COMなどは，プログラムファイル，.TXTやその他ソフトウェア独自の拡張子の付いたものをデータファイルといいます．

3 ソフトウェアの起動

ソフトウェアを使うには，ファイルリストから，対応するプログラムファイルを選択して，指定します．

表計算を起動する場合を例にあげてみましょう

表計算のプログラムは，ドライブCのMP4というディレクトリにあるとします．

表計算が起動します．

表計算を終了すると次の画面が表示されます．

画面に表示されるメッセージに従って，何かキーを押します． MS-DOSの基本画面が表示されます．

MEMO

Multiplan
マルチプランは，表計算ソフトウェアです．マルチプランのプログラムファイル名は，MP.EXEです．

クリック
マウスボタンを押して，すぐにはなすことをいいます。特に指定のない限りMS-DOSシェルでは，マウスの左ボタンをクリックしてください．

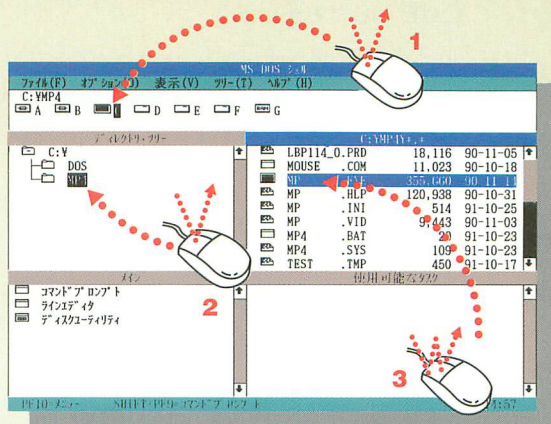
実際に操作してみましょう

本書では，はマウスの操作をは，キーボードの操作を説明しています．

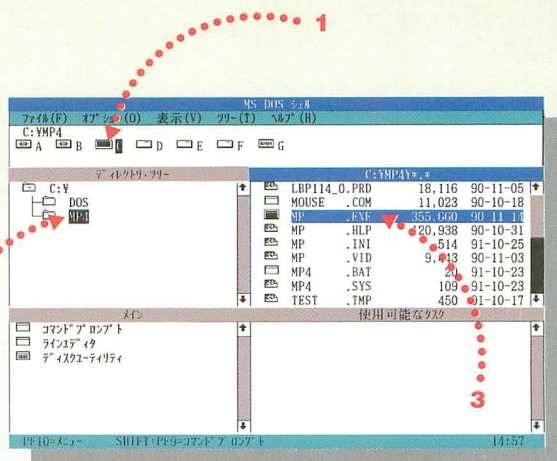
マウス本体を動かすと画面上のマウスポインタ（や）が動きます．ファイルやディレクトリなどを指定するときは，このマウスポインタを指定するものの上まで移動してクリックやダブルクリックします．

1 マウスポインタを表計算のあるディスクドライブまで移動し，クリックします．

2 マウスポインタを表計算のあるディレクトリまで移動し，クリックします．

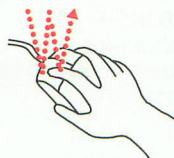
3 マウスポインタをファイルの一覧の表計算のプログラムファイルまで移動し，ダブルクリックします．

1 TAB／タブ キーを押して，ディスクドライブへ カーソルを移動します．矢印キーを押して，表計算があるドライブへ カーソルを移動し，↵ キーを押します．

2 TAB／タブ キーを押して，ディレクトリツリーへ カーソルを移動します．矢印キーを押して，表計算がある ディレクトリへカーソル を移動します．

3 TAB／タブ キーを押して，ファイルリストへ カーソルを移動します．矢印キーを押して，表計算のプログラムファイルへ カーソルを移動し，↵ キーを押します．

ソフトウェアの終了

ソフトウェアを終了するときは，作業結果をファイルとして保存します．保存ファイルを使って，次回から作業を継続することができます．保存しないと，最初からやり直しです．

ダブルクリック

マウスボタンをカチカチッと2回すばやく押すことをいいます。特に指定のない限りMS-DOSシェルでは，マウスの左ボタンをダブルクリックしてください．

4-1 ファイルの管理

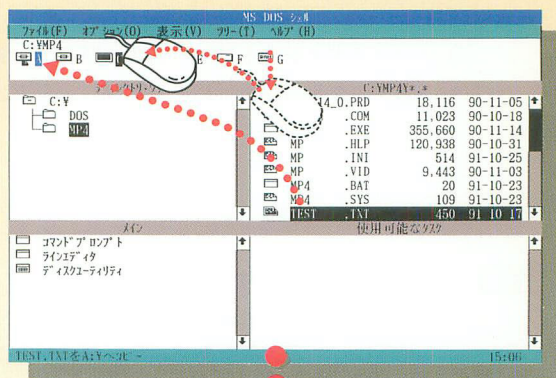
データファイルは，作業結果の保存ファイルです．大切な作業結果は，別のディスクにコピーしておく方が安全です．このようなファイルをバックアップファイルと呼びます．ここでは，ハードディスクに記録している作業中のデータファイルをバックアップ用のフロッピィディスクにコピーする方法を説明します．

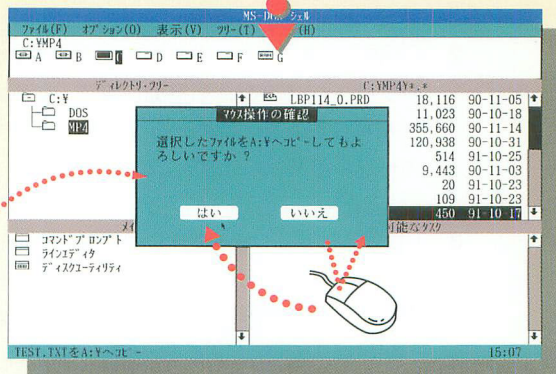
ファイルをコピーします

ドライブCのMP4というディレクトリにあるTEST. TXTというファイルをドライブAのフロッピィディスクにコピーしてみましょう．

まず，コピーしたいファイルをファイルリストに表示させせます．
前に説明したように選択したいファイルのあるドライブを選択し，ディレクトリを選択します．

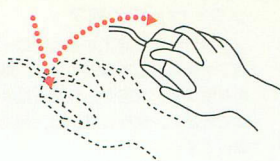
1 コピーしたいファイルをクリックします．

2 マウスボタンを押したまま，コピー先のドライブアイコンまでドラッグします．

3 マウスボタンをはなすとマウス操作の確認をするダイアログボックスが表示されます．

4 ［はい］ボタンをクリックします．

ダイアログボックス

MEMO

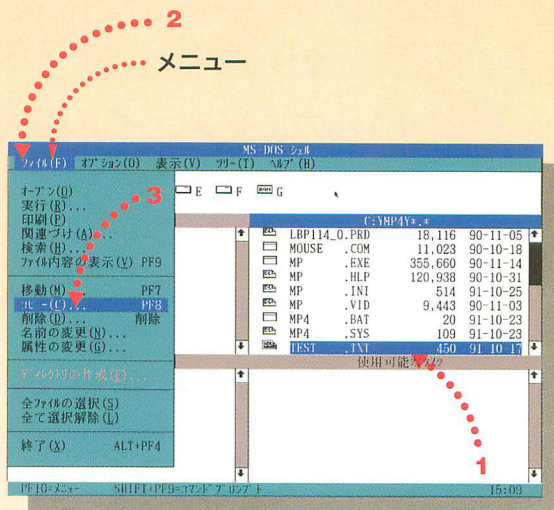
ファイルのコピー
同じドライブにコピーする場合は，［CTRL］キーを押しながらマウスボタンを押してドラッグします．

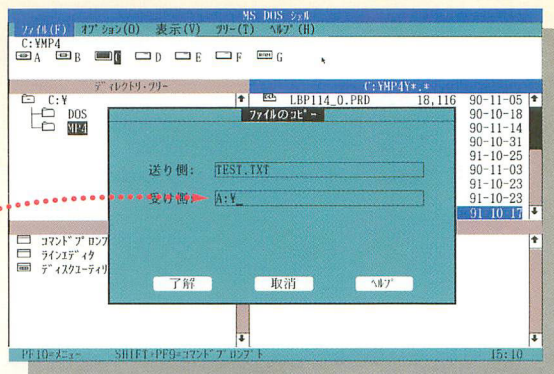
ドラッグ
ドラッグは，英語で引きずるという意味です．マウスボタンを押したまま，目的の場所までマウスポインタを移動して，ボタンをはなす操作のことをいいます．

1 [TAB]／[タブ] キーを押して，ファイルリストにカーソルを移動します．

2 矢印キーを使って，コピーしたいファイルにカーソルを移動します．

3 [ALT] キーを押して，カーソルを[ファイル(F)]メニューに移動して，[↵] キーを押します．[ファイル(F)]メニューがオープンします．

4 [↓] キーを押して [コピー(C)...] コマンドにカーソルを移動して，[↵] キーを押します．

ダイアログボックスが表示され，選択したファイルが表示されます．

5 [受け側：]テキストボックスにコピー先のドライブ名を入力します．

6 [↵] キーを押します．

メニュー

メニューは，MS-DOSの機能であるコマンドを一覧形式でまとめたものです．ファイル操作や画面表示についてのコマンドがメニューごとにグループわけされています．

ダイアログボックス

コマンド名のあとに省略記号（…）のあるコマンドを選択するとダイアログボックスが表示されます．これは，さきに詳細の決定をするためのものです．

テキストボックスの入力

まちがった文字を訂正するには [⇦]／[後退] キーを押して入力された文字を削除し，新たに入力しなおします．

4-2 ファイルの管理

ディスクの容量には，限りがあります．不要になったファイルを削除し，スペースを開けることが必要です．特に，一連の作業が終了したときに作業途中のファイルのバックアップコピーなどをそのままにしておくと，後で，どれが本当に必要なファイルなのかがわからなくなることもあります．ここでは，ハードディスク上にある不要なファイルを削除する方法を説明します．

いらないファイルを削除します

ドライブCのMP4というディレクトリにあるDATA.TXTというファイルを削除してみましょう．

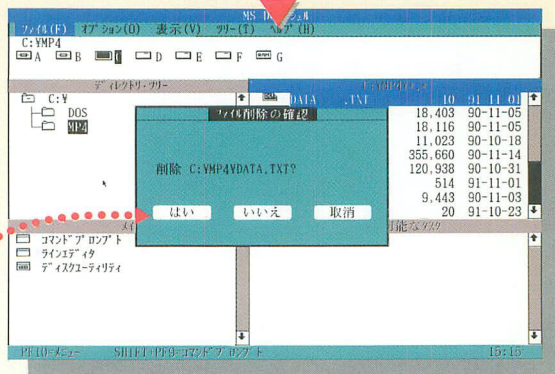
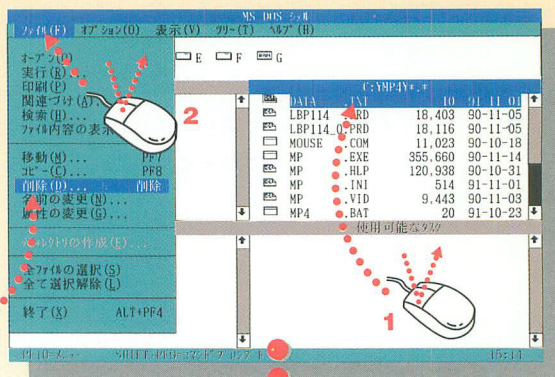
まず，削除したいファイルをファイルリストに表示させせます．
前で説明したように選択したいファイルのあるドライブを選択し，ディレクトリを選択します．

1 削除するファイルをクリックします．

2 ［ファイル(F)］メニューをクリックすると，メニューがオープンします．

3 ［削除(D)…］コマンドをクリックします．

4 確認をするためのダイアログボックスが表示されます．

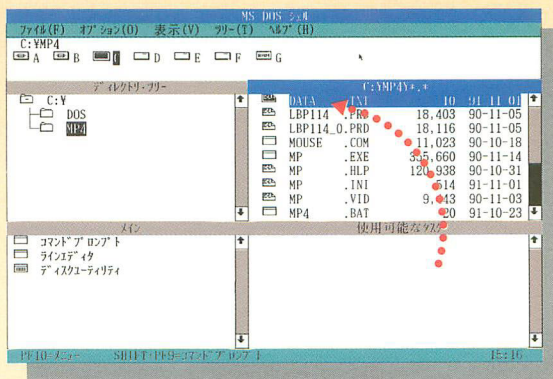
5 ［はい］ボタンをクリックします．

MEMO

間違ったときは（メニューの取消）
もう一度 ALT キーを押すか，ESC キーを押します．マウスの場合は，メニューバー，コマンド名以外の場所をクリックします．

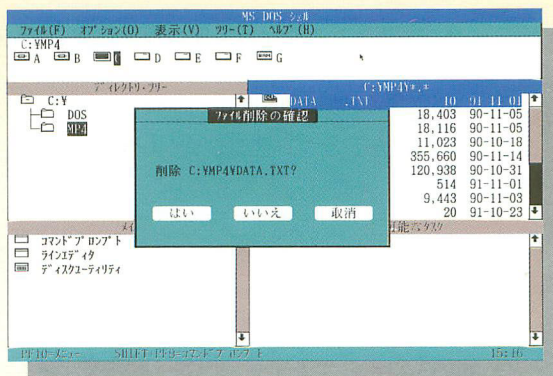
間違ったときは（コマンドの取消）
ESC キーを押します．マウスの場合は，メニューバー，コマンド名以外の場所をクリックします．

間違ったときは（ファイル削除の取消）
ファイルを削除した直後であれば，そのファイルをUNDELETEコマンドを使って復活させることができます．詳しくは他のマニュアルを参照してください．

1 TAB ／ タブ キーを押して，ファイルリストにカーソルを移動します．

2 矢印キーを使って，削除したいファイルにカーソルを移動します．

3 削除 キーを押します．

ダイアログボックスが表示され，選択したファイルが表示されます．

4 ↵ キーを押します．

コマンドの選択（選択できるコマンド）
対象に何を選ぶかによって，使用できるコマンドは違います．MS-DOSシェルが表示するメニューやコマンドは，選択した対象によって自動的に切り替わります．

コマンドの選択（ショートカットキー）
キー操作が簡単に行えるように，よく使われるコマンドには，ショートカットキーが割り当てられています．

コマンド名の横にショートカットキーの表示のあるコマンドは，そのキーを押すだけで，コマンドを選択したのと同じ操作になります．

4-3 ファイルの管理

関連するファイルをひとまとめにするためには，新しいディレクトリを作成し，そこに必要なファイルを移動します．ここでは，まず新しいディレクトリを作成する方法を説明します．

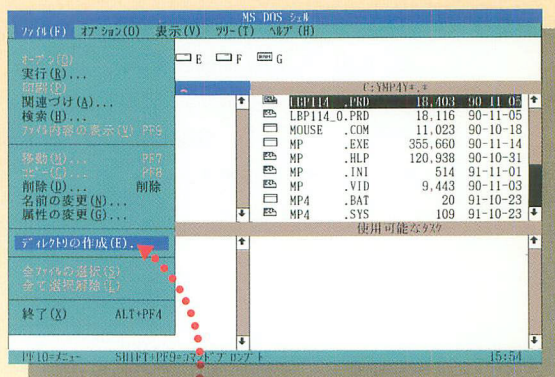
ディレクトリを作成します

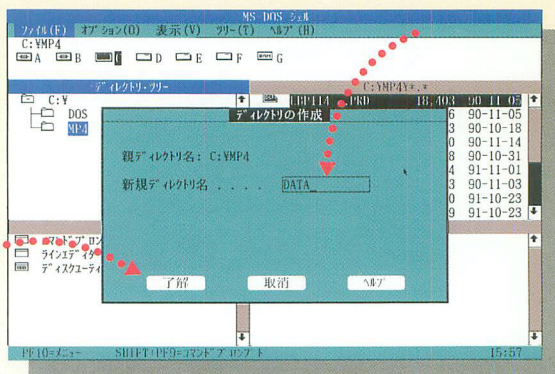
ドライブCのMP4というディレクトリの中に新しくDATAというディレクトリを作成してみます．

1 ディレクトリを作成するディレクトリをクリックします．

2 ［ファイル(F)］メニューをクリックします．

3 ［ディレクトリの作成(E)...］コマンドをクリックします．

ダイアログボックスが表示されます．

4 テキストボックスにキーボードからDATAと入力します．

5 ［了解］ボタンをクリックします．

MEMO

ディレクトリの作成

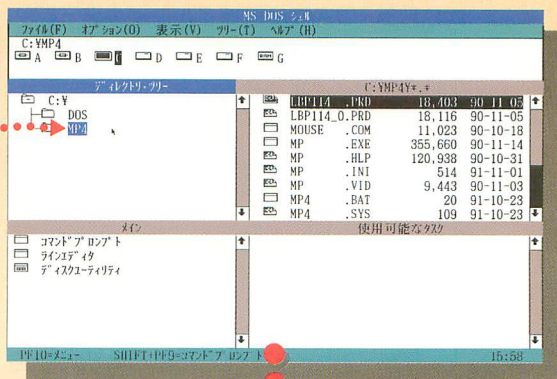
ディレクトリは，ディレクトリの中にも作成することができます．たとえば，C:¥DOSの中にディレクトリを作成する場合は，C:¥DOSを選択します．

ディレクトリの削除

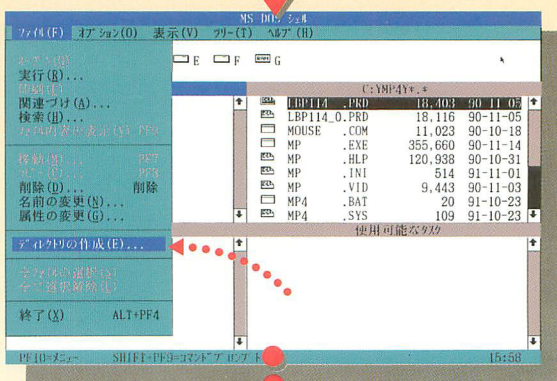
必要なファイルを間違って削除してしまわないように，空でないディレクトリは削除できなくなっています．中のファイルを全部削除してからディレクトリを削除します．

コマンドの選択

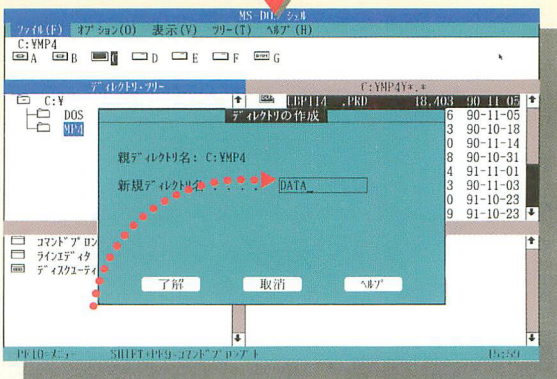
ディレクトリの作成コマンドは，ディレクトリツリーにカーソルがあるときだけ選択することができ，ファイルの一覧が選択されているときには，淡色表示になっています．

1 [TAB]／[タブ] キーを押して，ディレクトリツリーにカーソルを移動し，矢印キーを押して，ディレクトリを作成するディレクトリにカーソルを移動します．

2 [ALT] キーを押して，カーソルを[ファイル(F)]メニューに移動し，[↵] キーを押して，メニューをオープンします．

3 [↓] キーを押して，カーソルを[ディレクトリの作成(E)...] コマンドまで移動し，[↵] キーを押します．

[ディレクトリの作成]ダイアログボックスが表示されます．

4 テキストボックスにキーボードから DATA と入力します．

5 [↵] キーを押します．

新しいディレクトリが画面に表示されます．

コマンドの取り消し

[ESC] キーを押します．マウスの場合は，メニューバー，コマンド名以外の場所をクリックします．

ダイアログボックスの取消

[ESC] キーを押します．マウスの場合は，[取消]ボタンをクリックします．

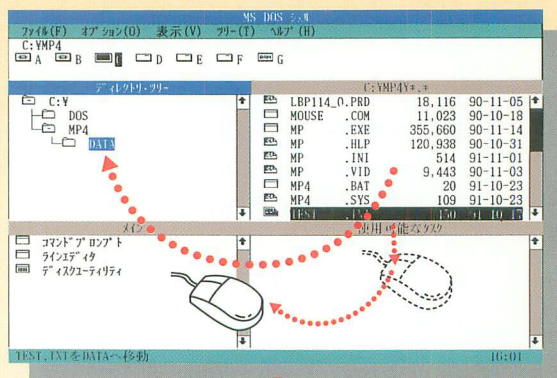
4-4 ファイルの管理

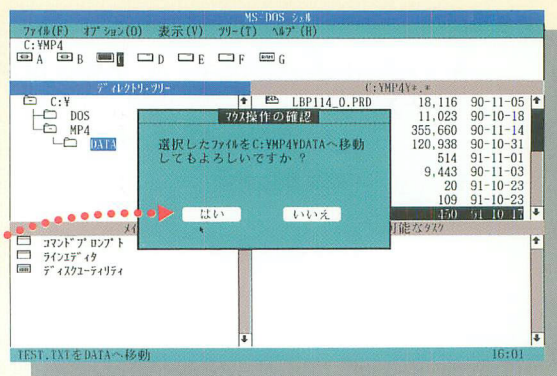
同じドライブの中でファイルを別のディレクトリに移動することができます．ファイルを移動すると，そのファイルは，移動元のディレクトリから削除されます．ここでは，関連するファイルを移動し，同じディレクトリにまとめる方法を説明します．

ファイルを移動してみましょう

ドライブCのMP4というディレクトリにあるTEST.TXTを新しく作成したDATAディレクトリに移動してみましょう．

1 移動したいファイルをクリックします．

2 ディレクトリツリーに表示されている移動先のディレクトリまでドラッグします．

3 マウスボタンをはなすとマウス操作の確認をするメッセージが表示されます．

4 ［はい］ボタンをクリックします．

MEMO

コピーとの違い

コピーは複製を作ることを意味します．同じドライブ中では，別のディレクトリに同じ内容の別のファイルができることになります．

コピーの目的は，バックアップを作ることと，似た内容の別のファイルを作る際にそのファイルの元を用意するなどです．

別のディスクへの移動

別のディスクへファイルを移動することはできません．まず対象とするディスクにファイルをコピーし，それから元のディスクのファイルを削除してください．

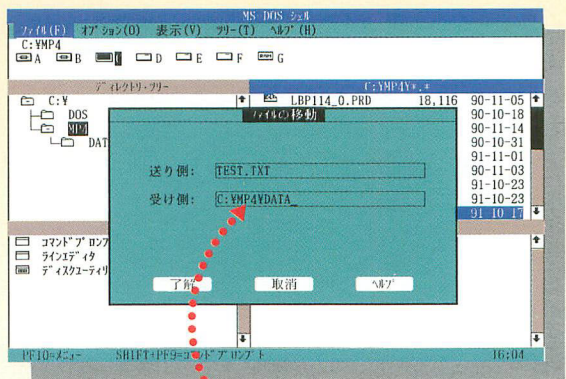
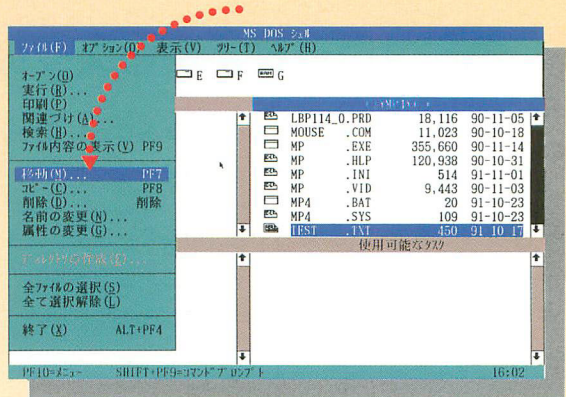
1 [TAB]／[タブ] キーを押して，ファイルリストにカーソルを移動します．矢印キーを使って，移動したいファイルにカーソルを移動します．

2 [ALT] キーを押して，［ファイル(F)］メニューにカーソルを移動し，[↵] キーを押します．

3 [↓] キーを押して，カーソルを［移動(M)...］コマンドに移動し，[↵] キーを押します．

ダイアログボックスが表示され，選択したファイルが表示されます．

4 テキストボックスにファイルの移動先となるドライブおよびディレクトリを入力します．

5 [↵] キーを押します．

ファイルの移動

複数のファイルを一度に移動する方法もあります．詳しくは，『ユーザーズガイド』など他のマニュアルを参照してください．

各コマンドの働き

各コマンドの働きについては，オンラインヘルプを参照してください．オンラインヘルプの使い方は，後述の「困ったときのオンラインヘルプ」を参照してください．

5 MS-DOSのユーティリティの使い方

新しいフロッピィディスクを使うときには，使用しているコンピュータのシステムに合わせてフロッピィディスクをフォーマット（初期化）しなければなりません．

フロッピィディスクのフォーマット

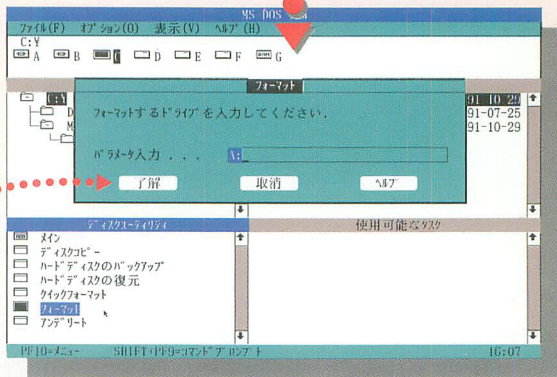
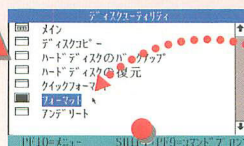
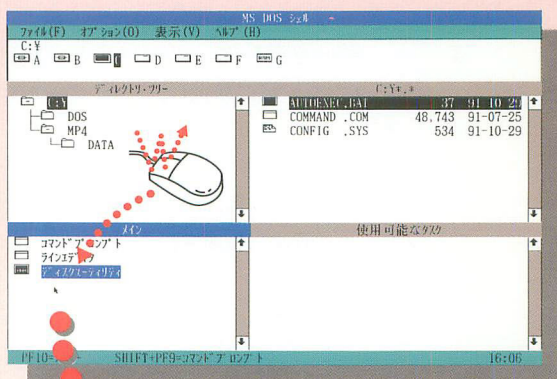
ここでは，プログラムリストに登録されているディスクユーティリティプログラムグループの中のフォーマットプログラムを使ってフォーマットをしてみましょう．

1 カーソルをプログラムリストに移動し，ディスクユーティリティグループを選択し，[↵] キーを押します．あるいは，ダブルクリックします．

2 フォーマットプログラムにカーソルを移動し，[↵] キーを押します．あるいは，ダブルクリックします．

3 ［フォーマット］ダイアログボックスが表示されます．

4 テキストボックスに適当なパラメータとスイッチを入力し，[↵] キーを押すか，［了解］ボタンをクリックします．

5 画面に表示されるメッセージに従って操作します．

MEMO

ユーティリティ

MS-DOSには，コマンドとは別にユーティリティと呼ばれている機能があります．これは，ディスクやファイル管理するための様々なプログラムです．

MS-DOSシェルのプログラムリストには，ディスク管理のユーティリティプログラムが登録されています．

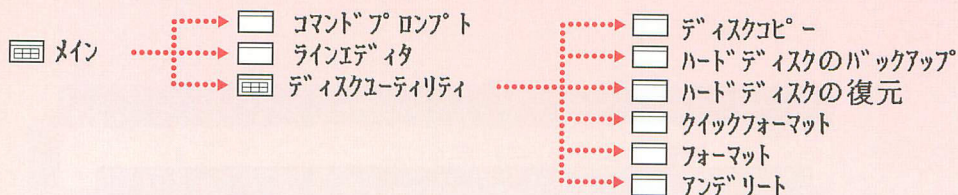
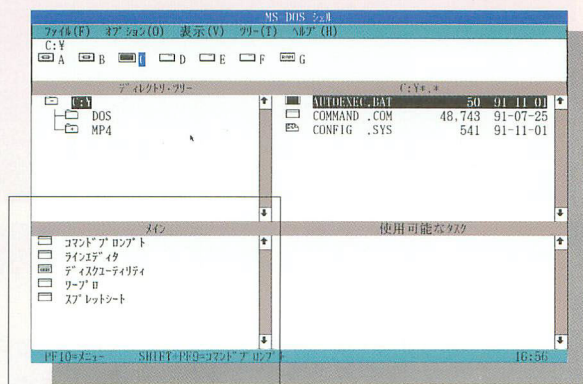
フォーマット

新しいディスクのフォーマット方法（FORMAT. COM）については，『ユーザーズリファレンス』など他のマニュアルを参照してください．

プログラムリストの働き

プログラムリストは，ソフトウェア（プログラム）を簡単に起動できるようにする機能を持っています．

フォーマットの例では,FORMAT. COMというプログラムファイルが「フォーマット」という名称と結びつけられています．さらに「フォーマット」は「クイックフォーマット」や「ディスクコピー」などとともに「ディスクユーティリティ」というグループ名にまとめられています．

- メイン
  - コマンドプロンプト
  - ラインエディタ
  - ディスクユーティリティ
    - ディスクコピー
    - ハードディスクのバックアップ
    - ハードディスクの復元
    - クイックフォーマット
    - フォーマット
    - アンデリート

この機能によって，使いたいプログラムファイルをディスク中で探さないで，プログラムリストに登録し，プログラムリストから名前を選択するだけでソフトウェアを起動することができます．たとえば，よく使うワープロや表計算のソフトウェアをプログラムリストに登録すれば，次のようになります．

プログラムリストにソフトウェアを登録する方法は，『ユーザーズガイド』に詳しく説明されています．

ディスクユーティリティ

ディスク装置を取り扱うためにMS-DOSに用意されているプログラムを集めたグループです．

プログラムリストのタイトルバー

タイトルバーには，現在オープンされているグループ名が表示されています．

メイングループに戻るには

メインアイコンを選択し，[↵]キーを押すか，［ファイル(F)］メニューの［オープン(O)］コマンドを選択します．マウスの場合は，ダブルクリックします．

メニューバー

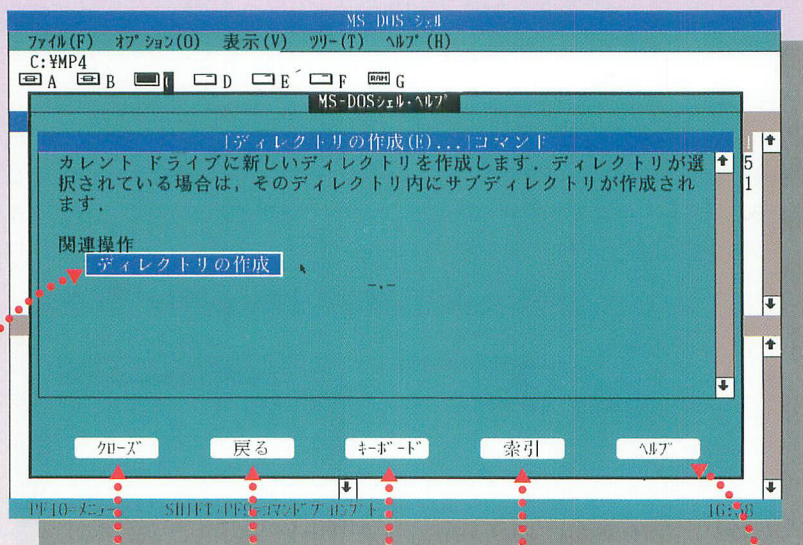
プログラムリストを選択するとメニューバーに表示されるメニューが変わります．また，［ファイル(F)］メニューのコマンドも変わります．

6 困ったときのオンラインヘルプ

MS-DOS V5.0には，オンラインヘルプというコンピュータの画面上に表示されるマニュアルがあります．MS-DOSシェルの操作やコマンドの使い方がわからなくなったときに表示して操作などを確認することができます．

オンラインヘルプを表示してみましょう

ディレクトリの作成で操作がわからなくなったとき，オンラインヘルプを表示してみる例を説明します．

[ディレクトリの作成(E)...] コマンドが選択されている状態で，PF1 キーを押します．
ヘルプウィンドウが表示されます．

MEMO

オンラインヘルプ

MS-DOSシェルの基本操作，メニュー，コマンド，ダイアログボックス，ダイアログボックスのオプション，操作手順などに関する情報を画面に表示します．

ヘルプメニュー

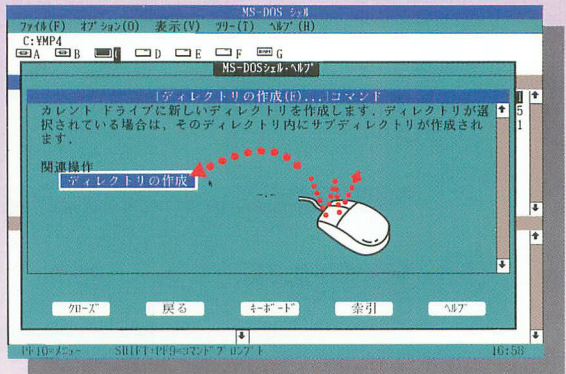
[ヘルプ(H)]メニューのコマンドを使ってもオンラインヘルプを表示することができます．

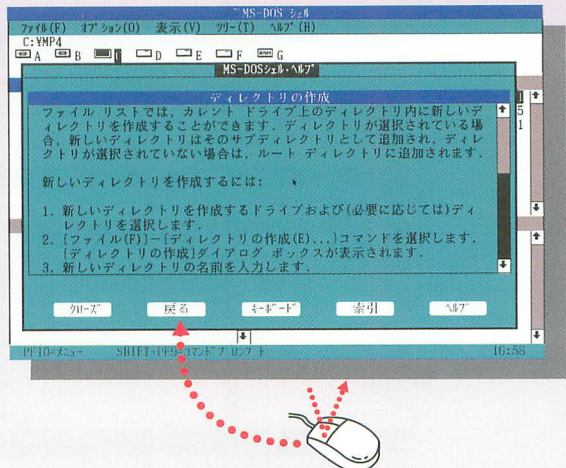
ヘルプボタン

ダイアログボックスの中に[ヘルプ]ボタンがあるものは，ボタンを選択するとヘルプウィンドウが表示されます．

ヘルプウィンドウ内の操作

ヘルプウィンドウの中には，いろいろな項目が設定されています．
ヘルプウィンドウ内のボタンや項目を選択すると，ヘルプウィンドウの中を移動することができます．

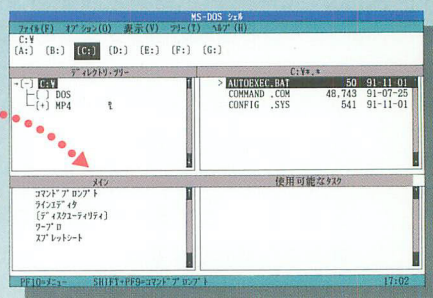
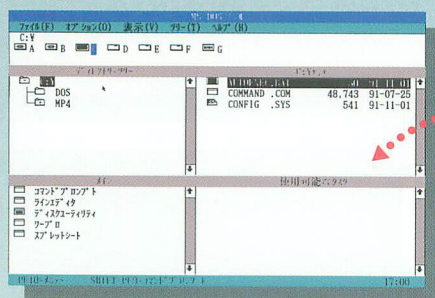
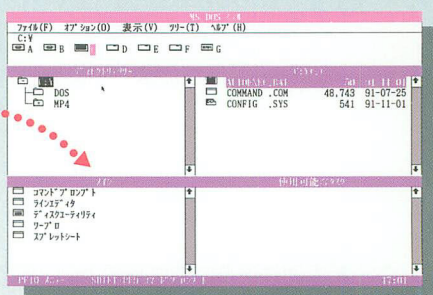
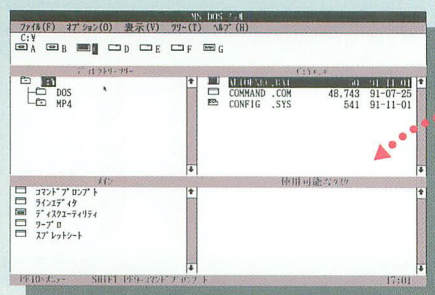
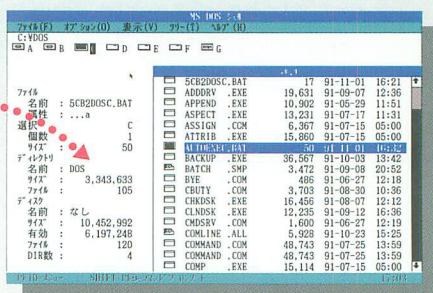
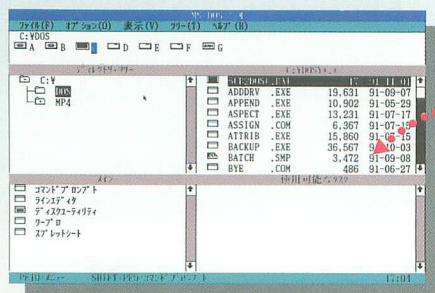
1 MS-DOSシェルヘルプの中で反転表示になっている項目に［TAB］／［タブ］キーを押してカーソルを移動し，［↵］キーを押すか，ダブルクリックするとその項目の説明に画面表示が変わります．

2 前画面に戻るときは画面上の［戻る］ボタンにカーソルを移動して，［↵］キーを押すか，クリックします．

3 ヘルプを終了するときは，［ESC］キーを押すか，［クローズ］ボタンをクリックします．

選択項目の表示
ヘルプウィンドウでは，選択できる項目が
本文とは異なる色で表示されます．

7 その他のいろいろな機能

必要に応じて，『ユーザーズガイド』などのマニュアルを利用して，操作してみてください．

画面表示の変更

グラフィックスモードとテキストモード

画面表示の色

表示モード

MEMO

画面表示の変更の操作

［オプション（O）］メニューの［画面表示（D）…］コマンドを利用して表示を変更します．

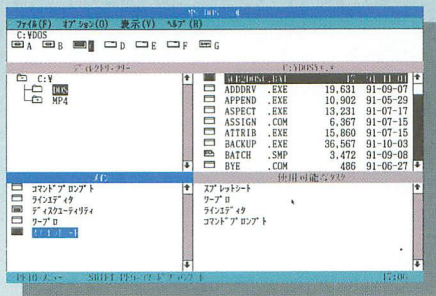
画面表示の色の操作

［オプション（O）］メニューの［スクリーンの配色（O）…］コマンドを利用して色を変更します．いろいろな色がありますので試してみてください．

表示モードの操作

［表示（V）］メニューで表示モードを選択することによって変更することができます．ファイル操作の目的に合わせて変更すると便利でしょう．

タスクリスト

複数のプログラムを同時に起動し，切り替えながら使うことができます．

コマンドプロンプトの操作

コマンドプロンプトでは，MS-DOSシェルのようなわかりやすい画面はありません．複数のソフトウェアを切り替えることもできません．しかし，プログラムの起動，ディスクやファイルの管理などは，MS-DOSシェルと同じことができます．さらに，コマンドプロンプト独自の応用的な使い方が可能です．

メモリの増設

コンピュータに内部メモリを増加する場合には，そのメモリの種類に応じて，MS-DOSの設定を変更する必要があります．

周辺機器の接続

プリンタやモデム，スキャナなど，コンピュータに周辺機器を接続するためには，MS-DOSの設定を変更する必要がある場合があります．

タスクリストの操作
［オプション(O)］メニューの［タスク・スワップ・オン（E)］コマンドが選択されていないと使用することはできません．

コマンドプロンプトの操作
MS-DOSシェルを終了して操作しますが，プログラムリストのコマンドプロンプトを使うとMS-DOSシェルを起動したまま操作することができます．

MS-DOSを終了しましょう

PF3 キーを押すか，[ファイル(F)]メニューの[終了(X)]コマンドで
MS-DOSシェルを終了します．
次にコマンドPOFFを実行すると
MS-DOSは終了します．

簡単でしたが，MS-DOS V5.0の使い方は，終わりです．

本書では，MS-DOSの基本的な働きから
ソフトウェアを起動し，
作成したファイルを管理する方法までを説明しました．

ここでは，ごく基本的なことしか説明していませんが，
MS-DOSには，もっといろいろな使い方があります．

まずは，MS-DOSを動かしてみてください．
実際にファイルを操作したり，
ソフトウェアを使っていくうちに
きっと多くのことを発見するでしょう．

本書が少しでもお役に立てばと思います．